

画家松井正を調べることで

田中里枝

(文学部美学美術史学科 平成13年度卒業)

私は2001年～2003年の2年間に渡ってゼミの延長で、鬼山ホテル所蔵作品の調査に参加し、改めて人との協力が大事だと実感した。その中で松井正について紹介しつつ、私が調査の上で思ったことを述べてみる。

その前にまず、松井正について『日本学術資料総目録美術工芸編』『日本美術家事典1990年度版』を参考に概説する。松井正（1906～1993）は広島県に生まれ、後に小出櫛重に師事し、信濃橋洋画研究所入所。1933年二科展特待賞受賞。第50回二科展東郷青児賞受賞。第71回二科展で総理大臣賞受賞。1975年大阪芸術賞、1979年には西宮市民文化賞を受賞。1993年兵庫県西宮市にて死去。

当初松井についてこれだけの事しか分かっていなかった。その時には卒業の年にあたっていたため、それ以上調べる気はおこらずそこで終わってしまった。その後、またゼミに参加する機会を得たために再び松井について調べることにした。

まずは手元に資料が少なかったため、インターネットで検索すると兵庫県西宮市上ヶ原小学校の校章デザインをしている事を知った。その後松井が校章デザインをする事になった経緯について、小学校の他に西宮市役所や教育委員会に問い合わせ、小学校から校章デザイン自体が1995年阪神大震災で被害に遭い、改築の際デザインを一新、当時の関係者も居ないため分からないと返答を頂いた。更にこの調査の中で松井が西宮市民文化賞を受賞する経緯について、公民館の絵画グループの指導に努めるなど、市民の文化向上に寄与した点が評価された事を知った。次に以前図書館から取り寄せた資料の中に、松井の自宅の電話番号を見つけ、より多くの資料を得る為に失礼を承知の上、意を決して電話をしてみた。松井夫人が電話に出られ、突然の私の話を聞いて下さり、松井の作品の多くは彼が亡くなった後に美術館や大学に渡している事、更には大阪芸術大学の教員で松井について研究している人物がいる事を教えて頂いた。その教員が大阪芸術大学美術学科戸塚弥夫助教授である。この戸塚先生とコンタクトを取れたことが新たな体験をもたらし、調査は大きく前進した。

戸塚先生に調査協力の依頼を告げるとすぐに快諾して下さい、松井正の画集やビデオなど、沢山の資料を送って頂いた。戸塚先生から頂いた資料から得られた事を以下にまとめる。

松井正（本名正一）は、洋画家小出櫛重の最初の門下生となってから、師に美術教育の重要性についても教えられたことよって、後進を育てるという意を持ったと言われている。後に常任理事に就任した二科の展覧会に於いて特待賞、推奨賞、総理大臣賞などを受賞し、教育者としても大阪市美術館附属美術研究所講師、大阪芸術大学教授など、10カ所もの関西の教育機関で教鞭をふるい多くの後進を育て、関西の美術界を盛り立てた。

戸塚先生とのやりとりの中で先生が松井正の作品《二科三十五人像》を探しており、九州にあるかもしれないという情報を得る事が出来た。この作品は東郷青児など当時の名だたる画家を描いた作品とされる。松井正は1930年に師小出櫛重の家族らと共に別府を訪れたとの記述があるために、別府との接点がある可能性が推測される。しかし残念ながら現在鬼山ホテル以外で松井の作品を確認する事は出来ていない。

この様に1つのことを調べていくと、更に調査すべき事が出てくる。調査の上で人との協力は欠かせないし、協力して頂いた事を考えると、いい加減な事は出来ないと励みになり、また頑張る力が湧いてくるから不思議だ。私は人との縁を大切に、今後も《二科三十五人像》が別府、そして九州にあるか否かという事を中心に調べてゆきたい。